

「桜を見る会」総理は真実を語れ!

税金でおもてなし
安倍総理 1000人 昭恵夫人も推薦

公選法違反
「前夜祭」会費5000円?



12月9日、共産党や立憲民主党など主要野党の国対委員長は首相主催「桜を見る会」疑惑を引き続き追及解明するため、大島理森衆院議長に40日間の会期延長を申し入れましたが自民・公明はこれを拒否しました。

総理主催の「桜を見る会」は「モリカケ」疑惑より単純明快に安倍首相個人の行いが問われています。また、「悪徳商法にお墨付き」を与えて詐欺被害拡大を招いたジャパンライフの代表との交友関係の疑いも濃厚です。追及を避けるために臨時国会閉会

臨時国会閉会
野党会期延長要求
閉会中審査決まる
「桜」逃げ切り許すな

で逃げ切りを図ろうとしても国民世論と結束する野党からは逃れる事はできません。

閉会中審査、来年1月からの通常国会での追及が安倍内閣の退陣まで続きます。世論調査でも安倍政権支持は軒並み下落。安倍首相による桜疑惑の説明でも70%以上の方が納得していないと応えています。

国民の声を受け、引き続き野党各会派は一丸となって「桜を見る会の疑惑を徹底解明し首相責任を許さない」と結束を強めています。



「桜」疑惑のシール投票に応じる高校生=取手駅



「安倍内閣は退陣を」と訴える集会参加者=12月5日、取手駅東口前広場

る取手駅前総行動が行われました。

「桜を見る会」疑惑の判断を求めるシール投票や「安倍9条改憲許すな」3000万署名、「消費税は5%に減税を」などの宣伝と署名に取り組みました。

「もう我慢できない」、「モリカケ、サクラ、いい加減にしろ」などと叫びながら署名やシール投票に応じました。

「桜を見る会」私物化許さない

取手市民も怒っています
総がかり取手行動集会とシール投票

「桜を見る会」、市長「接待疑惑」解明せよ!

自民・公明=意見書・請願 否決

取手市議会

議員	会派	「桜を見る会」疑惑解明を求める意見書 令和元年第4回定例会	市長接待疑惑を解明する百条委員会設置に関する請願 令和元年第1回定例会
加増みつ子	共産党	○	○
遠山ちえ子		○	○
関戸 勇		○	○
小池えつ子		○	○
小堤 修	はやぶさ	×	×
岩澤 信		×	×
渡部日出雄		×	×
結城 繁		×	×
赤羽 直一		×	×
佐藤 清		×	×
金澤 克仁		×	×
落合信太郎	公明党	×	×
染谷 和博		×	×
阿部 洋子		×	×
齋藤 久代		×	×
吉田 宏	みらい	×	×
山野井 隆		×	×
石井めぐみ		×	×
関川 翔		×	×
入江 洋一	議長	△	△
細谷 典男	無党派クラブ	○	○
池田 慈		○	○
飯島 悠介		○	○
佐藤 隆治	無派閥	×	×

12月市議会で日本共産党議員団は、国会で「ウソ」の答弁、名簿はまたもや廃棄、税金で有権者を買収する総理主催の「桜を見る会」の真相解明を求める意見書を他の会派と共同提案しました。採決の結果は、共産党4人と他会派を合わせ7人が賛成、自民系・公明16人は反対理由を述べるこ

ともなく否決しました。

自民系と公明党議員は、今年3月議会でも市民が求めた市長の「市長の祇園接待疑惑を解明する百条委員会設置」の請願にも反対しています。

安倍政権にも、市長に対しても「物言わぬ」自民系・公明に対する市民の批判は免れません。

いのち・くらしがいちばん 希望のもてる取手へ

取手市議会 11月29日～12月12日

任期最後の取手市議会定例会が11月29日から12日まで開会されました。一般会計・特別会計補正予算や条例改正、教育委員の選任同意、指定管理者の指定、請願や意見書などが審議されました。共産党議員の質問内容を報告します。



日本共産党取手市議団

地域格差をつくる 立地適正化計画は撤回を

加増みつ子

市が進める「立地適正化計画」は、人口密度を高めるためと、取手・戸頭・藤代駅周辺の市街地に、都市機能（駅前開発や商業施設等）と居住機能（定住化促進支援等）を集中させるとしています。これらの市街地と別扱いされる区域外との間に格差が出てくるのは明らかです。この計画の主たる目的は、国が進める一極集中の開発を誘導していくものです。私は、大規模開発よりも市内どこに住んでいても、市民の暮らしが保障される取手市をと立地適正化計画の白紙撤回を求めました。



交通過疎地にこそ コミバスは必要

遠山ちえ子



誰もが安心して住み続けられる取手市まちづくりに向け、地域のみなさんと力を合わせて要求実現に取り組む！——今議会では、コミュニティバスの運行を廃止された高須地域の問題を取り上げ、山口市を例に市民参加で再検討を求めました。空き家問題では県内でも遅れている「空き家対策計画」の作成を求め、福祉の拠点として地域包括支援センターの藤代庁舎内設置を求めました。要求実現に全力を尽くします。

「22億円の国保基金を 還元するべき!」

小池えつ子



国保基金を使って、減免制度の拡充を求め、大きく3点の提案を行いました。

市は広域化の影響をふまえ、5～6年は様子を見るとの答弁でしたが、私は子育て支援策として実現を図る加入者への還元策であり、早急に検討することを求めました。

- ①「18歳以下の均等割全額免除」に必要な財源、約1,850万円を予算化し実現すること
- ②「多子世帯への軽減策」を行う
- ③「低所得者層への軽減策」を計ること

浸水想定区域に新たな街?

関戸 勇



台風19号による河川の氾濫で浸水想定区域にある「居住誘導区域」が被害を受けています。国は、区域設定が妥当だったのか検証や対策強化が急務としています。取手市が新たな街として桑原に計画している「大規模商業施設」は洪水時に5メートルも浸水する地域です。災害に強い街づくりという大切な視点が抜けています。防災など総合的な立場から再検討するよう求めました。

―― 子育て安心の街は、身近に保育所・待機児ゼロで ―――

「住んでみようかな、子育て世帯にやさしいまち」・・・11月15日付広報とりで一面、市民が主役のプロモーション、子育て編に掲載されたものです。

しかし、保育所に子どもを預けられず、若い世代が安心して働き続けることができない人もいるのが実態です。藤井市長就任後の12年間で公立保育所が4カ所廃止され、そのうち3カ所を民営化しました。今年度舟山・吉田保育所統合で、合わせて5カ所の公立保育所がなくなることとなります。

身近にあった地域の子育てセンターとしての保育所が遠くなり、共働きの保護者にとって預けづらくなり大問題です。

「保育所整備計画」(素案) 保育所廃止・民営化計画を公表

11月下旬に取手市が公表した第4次保育所整備計画(素案)は、老朽化した施設整備に

要する費用を抑えるなどのために、「戸頭北保育所」を廃止し、「藤代中央保育所」を民営化するとしています。少子化の中でも社会環境の変化で児童の入所希望は増え続け、保育士不足で待機児童は43名(10月取手市公表)と深刻です。

老朽化した保育所は建て替え改修し、保育士の処遇を改善・増員するなど、待機児を速やかになくすことは、市として果たすべき必要最低限の責任です。

「整備計画」の名で保育所解体・民営化で公的保育を低下させることは許されません。

少子化の中でこそ 保育予算増額・子育て支援拡充を

日本共産党は、少子化の中でこそ保育予算の増額、安心して子どもを預けられる保育環境の改善・公的保育を守り子育て支援の拡充にみなさんと力あわせます。

2019年も大変お世話になりました。来年1月は、市議会議員選挙、日本共産党は、だれ一人取り残さない政治の実現へ皆さんと力を合わせます。来年もどうぞよろしくお願ひします。

2019年12月年末
日本共産党取手市委員会